

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ブルーフ・ハイブリッド	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.519	△RG 0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ブルーフ・ハイブリッド

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

番

比較対照ボール：ブルーフ・パール

フレアーの幅 インチ

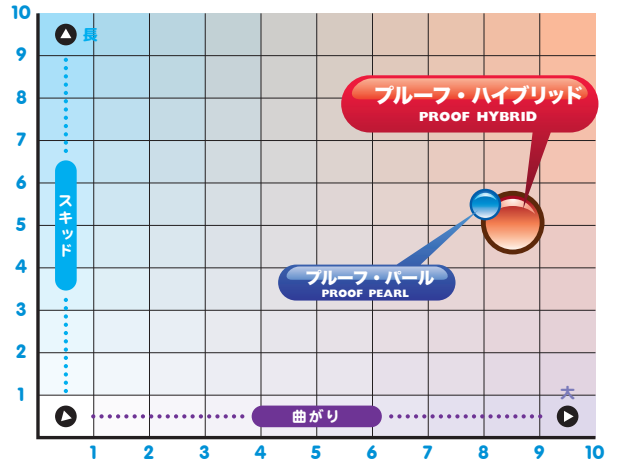
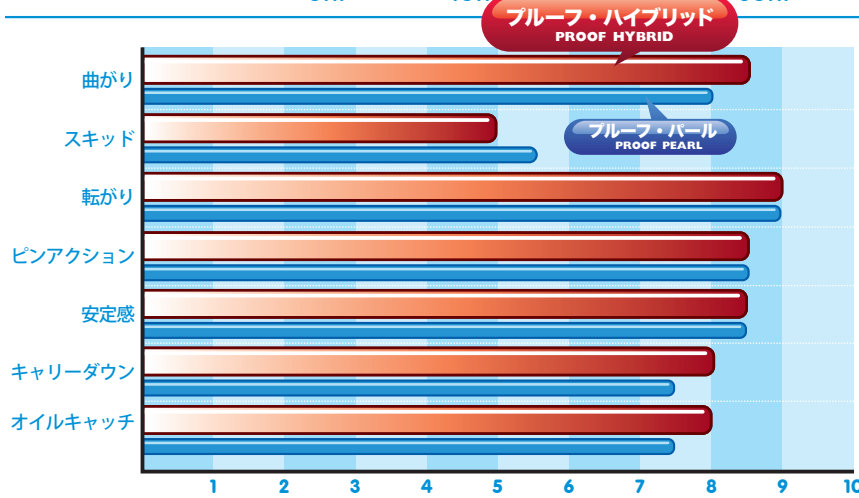
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

Midでの強めのブレーキ感と終わることのない持続的な曲がり(Continuous)が抜群な安定感を出しているPROOF SOLIDから曲がりのイメージを継承しつつ走りを重視したPROOF PEARL。各々キャッチのレベルは異なるものの持続的な曲がり特徴的で、トーナメントプレイヤーには欠かせないボールに仕上がっています。やはり旧EBONITEのウレタンとブランチウィックとのケミカルの融合の化学反応は今だ未知数。今回のPROOF HYBRIDはHYBRIDならではのSOLID素材のキャッチの良さでPEARL系のスキッドを活かした”良いとこ取り”の性能に仕上がっています。

私がテストした感じだと、表面仕上げの3000 Grit SIAAIRは思っている以上に摩擦を感じ、キャッチがやや手前から強く感じます。そのキャッチから持続的に動き始めようとするので、PROOF SOLIDよりは強さは感じませんがHYBRIDの中では手前のキャッチは強いほうだと思います。その手前の強さを軽減させるため軽くポリッシュして投球してみると、程よくSOLIDとHYBRIDの中間の性能に収まる感じです。SOLIDからHYBRIDそれからPEARLまでを位置付けると、箱出しのままだとHYBRIDの表面がやや曇っているのでキャッチが先行します。なのであえてポリッシュすることでSOLIDとPEARLとも違った性能がしっかりと差別化でき、掴みすぎる場合にはポリッシュも視野に入れることも念頭に置くべきでしょう。昨年行われたSSSカップでチームTRACK女子キャプテンの久保田彩花プロがPROOF HYBRIDを持込み、総合3位になりました。彼女は500-3000 Grit SIAAIRの箱出しをポリッシュ加工し、トーナメントのコンディションに合わせて使用したと報告を受けました。ポリッシュすることで走りが加わりアジャスト幅が広がったのでしょうか。

箱出しで投球するもよし。久保田プロのようにポリッシュするもよし。自分のイメージに合わせてお使いください。

特記事項

PROOFは曲がりの安定感と総合的な扱いやすさが抜群のモデル。SOLIDからPEARL、HYBRIDが加わり、さまざまなシーンで使えるところまで出揃いました。